

< 検査内容変更のお知らせ >

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、下記項目におきまして、検査内容の一部を変更させていただきますのでご案内申し上げます。

誠に勝手ではございますが、弊社事情ご賢察のうえ、ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

《検査内容変更項目》

実施日 平成30年9月29日(土)受付分より

項目コード	項目名	変更箇所	新	現	備考	検査案内記載頁
419	亜鉛 (Zn)	基準値	80~130 $\mu\text{g}/\text{dL}$	64~111 $\mu\text{g}/\text{dL}$	日本臨床栄養学会「亜鉛欠乏症の診療指針2018」亜鉛欠乏症診断基準に準拠(次頁参照)	55
631	カテコールアミン分画 (CA) <酸性蓄尿>	報告成分	アドレナリン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)	アドレナリン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)	報告成分の追加	68
			ノルアドレナリン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)	ノルアドレナリン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)		
			ドーパミン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)	ドーパミン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)		
			アドレナリン濃度 ($\mu\text{g}/\text{L}$)			
—	遊離カテコールアミン分画 (F-CA) <酸性蓄尿>	報告成分	ノルアドレナリン濃度 ($\mu\text{g}/\text{L}$)		報告成分の追加	68
			ドーパミン濃度 ($\mu\text{g}/\text{L}$)			
			遊離アドレナリン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)	遊離アドレナリン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)		
			遊離ノルアドレナリン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)	遊離ノルアドレナリン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)		
—	遊離ドーパミン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)	報告成分	遊離ドーパミン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)	遊離ドーパミン1日量 ($\mu\text{g}/\text{day}$)	報告成分の追加	68
			遊離アドレナリン濃度 ($\mu\text{g}/\text{L}$)			
			遊離ノルアドレナリン濃度 ($\mu\text{g}/\text{L}$)			
			遊離ドーパミン濃度 ($\mu\text{g}/\text{L}$)			

項目コード	項目名	変更箇所	新	現	備考	検査案内記載頁
—	農薬スクリーニング	検体量	ヘパリン加血液 4.0mL	ヘパリン加血液 5.0mL	検体量および単位の 見直し	78
		単位	μg/mL	ng/mL		
2545	IgG4	項目コード	2730	2545	測定試薬の変更	108
		検査方法	LA	ネフェロメトリー法		
		基準値	4.5~117 mg/dL	4.8~105 mg/dL		
		所要日数	3~4日	3~5日		
0194	ヒノキ IgE (RAST) (特異的シングルアレルゲン)	検査方法	FEIA [サーモフィッシャーダイアグノ スティックス]	FEIA [サーモフィッシャーダイアグノ スティックス]	同一メーカーの改 良試薬への変更	108

●亜鉛(Zn)

亜鉛欠乏症に関して、日本臨床栄養学会から『亜鉛欠乏症の診療指針2018』にて、亜鉛欠乏症の診療指針が示されました。その中で血清亜鉛の基準値が80~130 μg/dLと示されました。

また、同ガイドラインの中で、亜鉛欠乏の診断指針も示されていますので、ご紹介致します。

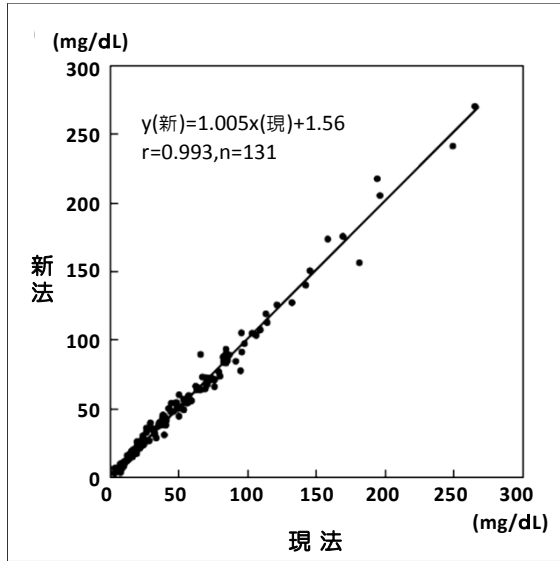
〈 要旨 亜鉛欠乏の診断指針 〉

亜鉛欠乏症は、亜鉛欠乏の臨床症状と血清亜鉛値によって診断される。表に亜鉛欠乏症の診断基準を示す。亜鉛欠乏症の症状があり、血清亜鉛値が亜鉛欠乏または潜在性亜鉛欠乏であれば、亜鉛を投与して、症状の改善を確認することが推奨される。

1. 下記の症状/検査所見のうち1項目以上を満たす
1) 臨床症状・所見 皮膚炎、口内炎、脱毛症、褥瘡(難治性)、食欲低下、発育障害(小児で体重増加不良、低身長)、性腺機能不全、易感染性、味覚障害、貧血、不妊症
2) 検査所見 血清アルカリホスファターゼ(ALP)低値
注：肝疾患、骨粗しょう症、慢性腎不全、糖尿病、うっ血性心不全などでは亜鉛欠乏であっても低値を示さないことがある。
2. 上記症状の原因となる他の疾患が否定される
3. 血清亜鉛値 3-1：60 μg/dL未満：亜鉛欠乏症 3-2：60~80 μg/dL未満：潜在性亜鉛欠乏 血清亜鉛は、早朝空腹時に測定することが望ましい
4. 亜鉛を補充することにより症状が改善する

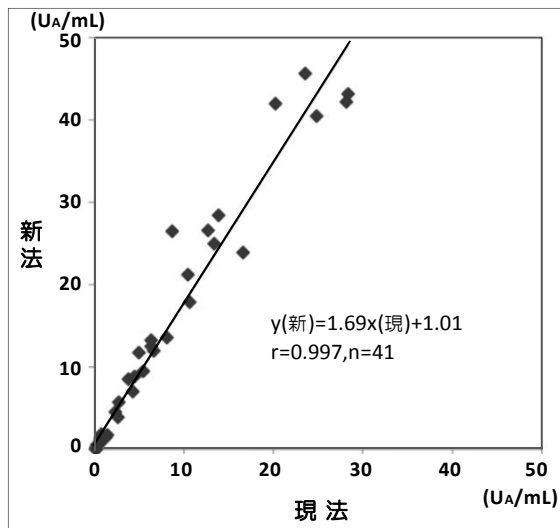
Probable	亜鉛補充前に1、2、3を満たすもの。亜鉛補充の適応になる。
Definite (確定診断)	上記項目の1、2、3-1、4をすべて満たす場合を亜鉛欠乏症と診断する。 上記項目の1、2、3-2、4をすべて満たす場合を潜在性亜鉛欠乏症と診断する。

● IgG4 現法と新法の比較



(委託先検討資料)

●ヒノキ IgE(RAST) 現法と新法の比較



(クラス) n=48

6							
5							
4			7	5			
3			3	9			
2		8	5				
1	1						
0	10						
	0	1	2	3	4	5	6

新法 (クラス)

現法 (クラス)

(メーカー検討資料)